

## ■ 概況

9/26~10/2のNYMEX・WTIは、52.64~56.41ドルの範囲で推移した。

10月3日は、9月の米国非製造業況指数が10年ぶりの低調で中国、欧州だけでなく米国の景気先行き懸念が高まったことで、売りが先行、値ごろ感からの買い戻しもあったものの、8営業日続落した。11月限終値は前日比0.19ドル安の52.45ドル。

週末4日は、昨日までの安値の反動で買い、また、9月の米国雇用統計が失業率3.5%と49年ぶりの低水準で、米国景気を悲観するほどではないとの認識の広がりで、9営業日ぶりに反発した。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は710基で前週比3基減、7週連続の減少。11月限終値は前日比0.36ドル高の52.81ドル。

週明け7日は、10日からの米中貿易協議の行方に関心が集まる中、売り買いが交錯し、わずかに反落した。イラク各地で1日から続く反政府デモの死者が100名を越えたことで、一時上昇した。11月限終値は前週末比0.06ドル安の52.75ドル。

8日は、ウイグル族弾圧を理由とした中国通信大手28社・団体への輸出禁止措置の発表など、米中摩擦の拡大懸念が広がり、続落した。ただ、イラクやエクアドルでの反政府デモの報道で下値を支えた。11月限の終値は前日比0.12ドル安の52.63ドル。

9日は、米中間級協議へ期待やトルコのシリア北部への攻撃発表などで、買いが先行したものの、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比290万バレル増と4週連続の積み増し報告があり、また、前週の米国国内産油

量が過去最高を記録したことから、わずかに続落した。11月限の終値は前日比0.04ドル安の52.59ドル。

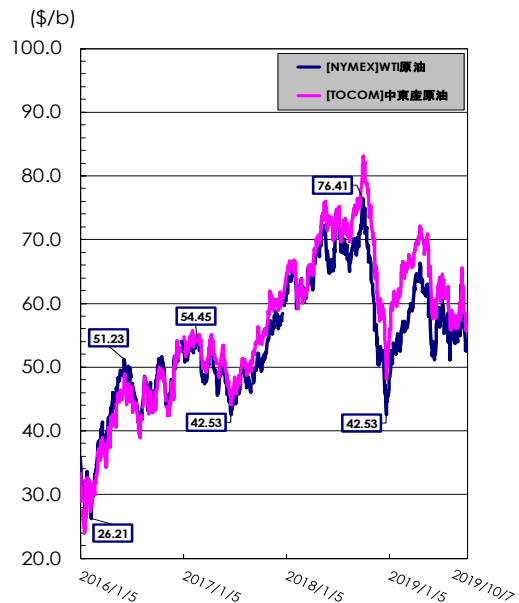
アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場（11月渡し）は9月26日~10月2日の間58.30~61.70ドルの範囲で推移した。10月3日56.90ドル、4日57.60ドル、7日58.10ドル、8日58.60ドル、9日57.60ドルで推移した。

為替は9月26日~10月2日の間107.71~108.19円の範囲で推移した。10月3日107.09円、4日106.86円、7日106.74円、8日107.39円、9日107.12円で推移した。

財務省が10月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、42,677円/klで、前旬比1,010円安、ドル建て63.91ドルで前旬比1.43ドル安。為替レートは1ドル/106.17円だった。

そのような中で、10月7日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.7円の値上がり、軽は同2.0円の値上がり、灯油は同28円の値上がり（18%ベース）だった。消費税引き上げ後初の調査であったが、各油種とも消費税抜きの本体価格ではほぼ横ばいだった。ガソリン・軽油・灯油ともに3週連続の値上がりだった。この週（10月第1週）の原油コストは値下がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円と2.5円の値下げに分かれた。

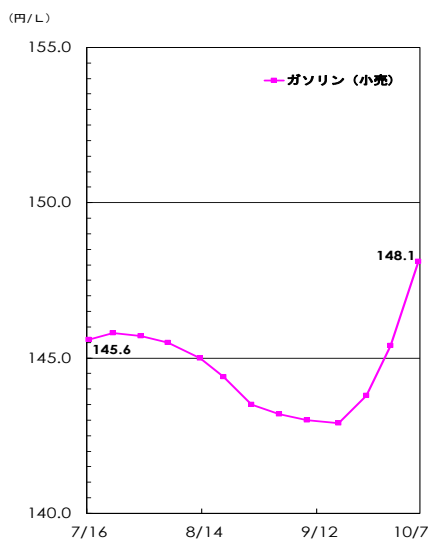
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/29 ~ 10/5	3,270 ▼ -30	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.5 ▼ -0.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/5	12,195 ▲ 430	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/7	56.61 ▼ -1.72	▼ -25.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/7	52.75 ▼ -1.32	▼ -21.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	63.91 ▼ -1.43	▼ -12.13
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	42,677 ▼ -1,010	▼ -10,474
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.17 ▲ 0.12	▲ 4.96
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/7	107.74 ▲ 1.18	▲ 6.23



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/29 ~ 10/5	950 ▲ 19	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	788 ▼ -99	▼ -	
	輸出	"	71 ▼ -1	▲ -	
	在庫	10/5	1,592 ▲ 91	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/1 ~ 10/7	57.8 ▼ -2.1	▼ -16.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/1 ~ 10/7	53.2 ▼ -1.3	▼ -22.1
		(TOCOM/中部)	10/7	54.3 ▼ -1.5	▼ -21.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/7	148.1 ▲ 2.7	▼ -9.4	

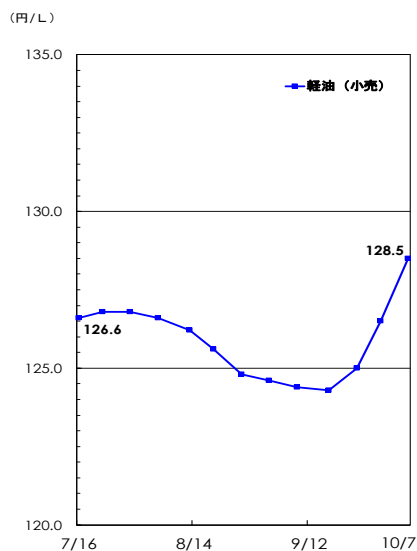
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

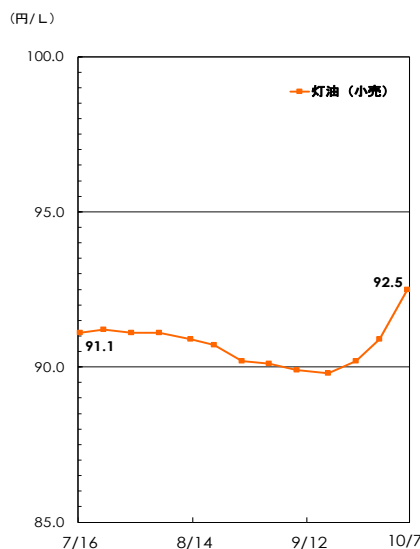
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/29 ~ 10/5	772 ▼ -70	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	634 ▼ -60	▼ -	
	輸出	"	160 ▼ -23	▲ -	
	在庫	10/5	1,426 ▼ -22	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/1 ~ 10/7	61.1 ▼ -1.2	▼ -13.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/1 ~ 10/7	62.4 ▼ -0.3	▼ -12.0
		(TOCOM/中部)	10/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/7	128.5 ▲ 2.0	▼ -7.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/29 ~ 10/5	151 ▼ -29	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	132 ▲ 16	▼ -	
	輸出	"	49 ▲ 49	▲ -	
	在庫	10/5	2,543 ▼ -30	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/1 ~ 10/7	60.5 ▼ -1.6	▼ -14.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/1 ~ 10/7	56.8 ▼ -1.6	▼ -20.6
		(TOCOM/中部)	10/7	58.5 ▼ -1.5	▼ -19.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/7	92.5 ▲ 1.6	▼ -4.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月9日のNYMEX市場WTI原油は、10日からの米中間級協議へ期待やトルコのシリア北部クルド勢力への攻撃の発表などで、買いが先行したものの、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比290万バレル増と市場予想(同140万バレル増)を上回る4週連続の積み増し報告があり、また、前週の米国国内産油量が1260万b/dと過去最高を記録したことから、需給緩和懸念が広がり、わずかながら続落した。11月限の終値は前日比0.04ドル安の52.59ドル、12月限の終値は前日比0.01ドル安の52.61ド

ル。

EIAによると、10月7日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.3セント値上がりの1ガロン2.645ドル(75.2円/ℓ)、ディーゼルは同1.9セント値下がりの3.047ドル(86.6円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年9月29日～10月5日に休止したトッパー能力は33.1万バレル/日で、前週に対して2.1万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は327.0万klと、前週に比べ3.0万kl減少。前年に対しては45.0万klの増加。トッパー稼働率は83.5%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては11.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリンが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.0%増、ジェット/13.3%減、灯油/16.3%減、軽油/8.3%減、A重油/26.9%減、C重油/0.0%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は16.0万kl(前週比2.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は78.8万kl(対前週11.1%減)と2週連続で減少となり、7週連続で100万klを下回った。ジェット5.9万kl(対前週10.9%減)、灯油13.2万kl(対前週14.5%増)、軽油63.4万kl(対前週8.6%減)、A重油15.2万kl(対前週23.8%減)、C重油13.6万kl(対

前週6.4%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/29 ~ 10/5)	前週 (9/22 ~ 9/28)	前週比
ガソリン	788	887	▼ -99 (-11%)
ジェット燃料	59	66	▼ -7 (-11%)
灯油	132	116	▲ 16 (14%)
軽油	634	694	▼ -60 (-9%)
A重油	152	199	▼ -47 (-24%)
C重油	136	146	▼ -10 (-7%)
合計	1,901	2,108	▼ -207 (-10%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月5日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油が積み増しになり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは159.2万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては14.1万kl多い。

灯油は254.3万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては5.6万kl少ない。

軽油は142.6万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては7.7万kl少ない。

A重油は69.6万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては3.8万kl多い。

C重油は187.0万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては20.7万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (10/5)	前週 (9/28)	前週比
ガソリン	1,592	1,501	▲ 91 (6%)
ジェット燃料	864	806	▲ 58 (7%)
灯油	2,543	2,573	▼ -30 (-1%)
軽油	1,426	1,448	▼ -22 (-2%)
A重油	696	691	▲ 5 (1%)
C重油	1,870	1,897	▼ -27 (-1%)
合計	8,991	8,916	▲ 75 (0.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月1日～7日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替レートわずかに円高で、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、10月1日～7日の間、ガソリン110～113円台で大きく値下がり、軽油60～62円台で大きく値下がり、灯油59～62円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111～114円台で大きく下がり、軽油61～63円台で大きく値下がり、灯油53～56円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～107円台で値下がり後回復、軽油61～63円台で大きく値下がり、灯油56～57円台で値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、2.0円と2.5円の値下げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月1日～7日の製品スポット市況は、9月24日～30日平均と比べ、全油種・全取引で値下がりした。

直近の陸上スポット価格(10/1～10/7千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.1円の値下がり、灯油は1.6円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.8円の値下がり、灯油は2.0円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.3円の値下がり、灯油は1.6円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

10月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円と2.5円の値下げに分かれた。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]		今週 (10/1～10/7)	前週 (9/24～9/30)	前週比
スポット価格	レギュラー	57.8	59.9	▼ -2.1
	灯油	60.5	62.1	▼ -1.6
	軽油	61.1	62.3	▼ -1.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]		今週 (10/1～10/7)	前週 (9/24～9/30)	前週比
先物価格	レギュラー	53.2	54.5	▼ -1.3
	灯油	56.8	58.4	▼ -1.6
	軽油	62.4	62.7	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/1～10/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.1	▼ -1.3	▼ -1.7
灯油	▼ -1.6	▼ -1.6	▼ -1.6
軽油	▼ -1.2	▼ -0.3	▼ -0.7
A重油	▼ -0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.7円高の148.1円、軽油も同2.0円高の128.5円、灯油は18%ベースで同28円高の92.5円(1%ベースでは同1.6円高の92.5円)。消費税引き上げ後、初めての調査であったが、各油種とも消費税抜きの本体価格ではほぼ横ばいとなった。ガソリン・軽油・灯油ともに、3週連続の値上がり。都道府県別には、値上がりが全47都道府県、横ばいと値下がりはなし。全国最安値は滋賀県の141.2円(前週比2.0円高)、その次は、埼玉県の142.5円(同2.2円高)、最高値は長崎県の157.5円(同2.2円高)。最も値上がりしたのは4.7円高の岡山県(147.8円)。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値下げとなった。今週は、原油価格は大きく値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円と2.5円の値下げに分かれた。次週(10月15日)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/7)	前週 (9/30)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	148.1	145.4	▲ 2.7	08/8/4 185.1
	灯油	92.5	90.9	▲ 1.6	08/8/11 132.1
	軽油	128.5	126.5	▲ 2.0	08/8/4 167.4

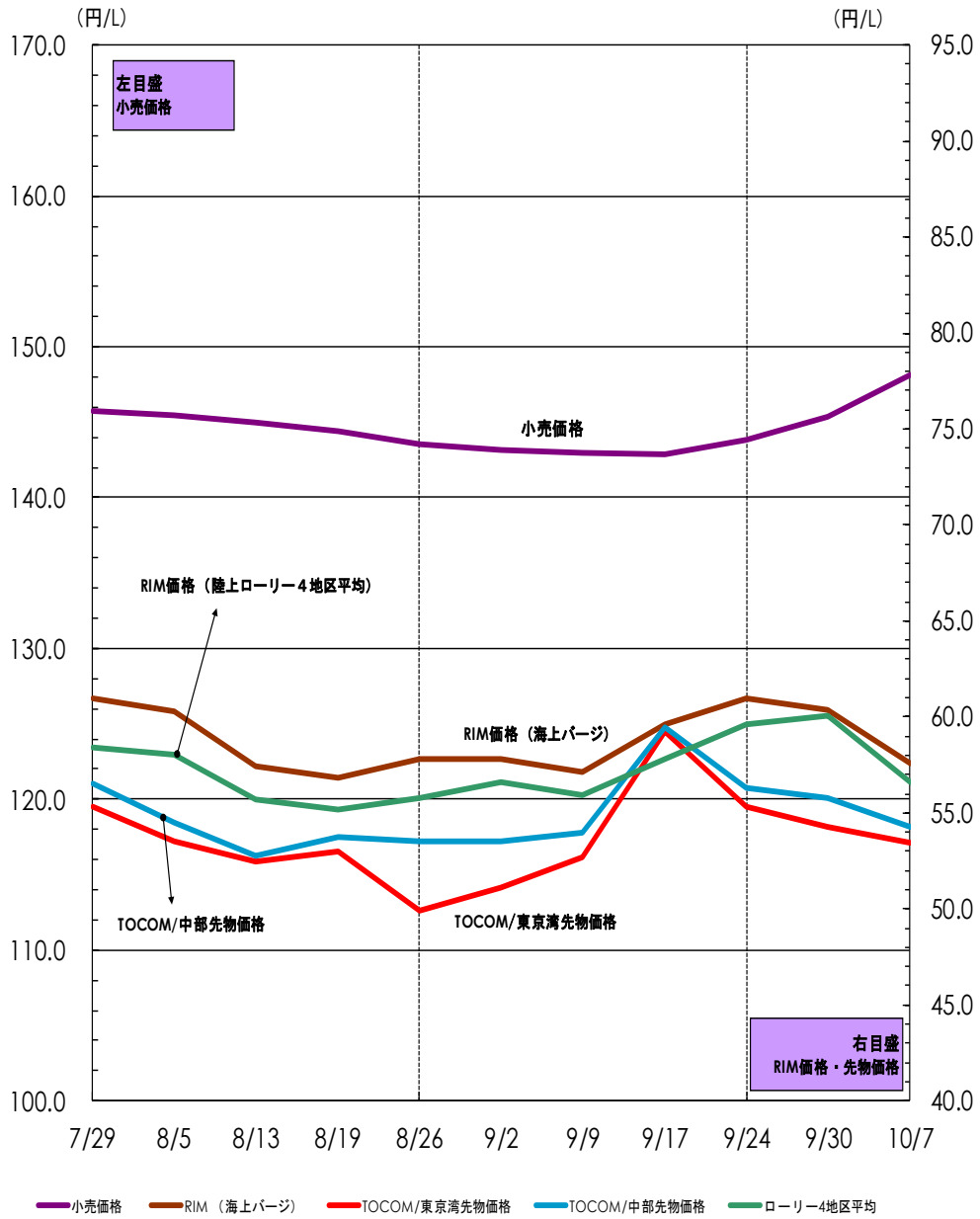
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2019/7/29 ~ 2019/10/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2019第27号)の公表は、10/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。